

平成29年度  
一般1期入学試験問題

国語  
(教養学部・看護学部)

注意事項

1. 問題用紙は、試験監督者の指示があるまで開いてはいけません。
2. 問題用紙と解答用紙(マークシート)は別になっています。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
  - ① 氏名欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
  - ② 受験番号欄 受験番号(数字及び英字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
  - ③ 試験種別欄 一般1期にマークしなさい。
  - ④ 教科・科目欄 国語にマークしなさい。
4. 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

|    |
|----|
| 10 |
|----|

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

| 解答<br>番号 | 解 答 欄 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|----------|-------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|          | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 0 |
| 10       | ①     | ② | ● | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |

5. 問題用紙は、試験終了後持ち帰りなさい。

1 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) チユウコク

1

- ① 両者の実力はハクチュウしている
- ② 貨幣をチュウゾウする
- ③ 町なかのチュウザイ所
- ④ チュウゲン耳に逆らう

(ウ) スウコウ

3

- ① 自然に対するソンスウの念
- ② 日本ユウスウの景勝地
- ③ 都市のチュウスウに位置する
- ④ 時代のスウセイに従う

(オ) セツシヨウ

5

- ① 無実であることをリツシヨウする
- ② ごケンシヨウにてなによりと存じます
- ③ 是非が問われるシュツシヨウ前診断
- ④ その手の話にはシヨクシヨウ気味だ

(イ) ジフ

2

- ① なにかと軽佻<sup>けいちよう</sup>フハクな世相
- ② 二親に対するフヨウ義務
- ③ 指揮者台のフメン
- ④ 長期のフサイを抱える

(エ) ジョジヨ

4

- ① 春のジョクンの式典
- ② 橋をジョコウして渡る
- ③ 滅亡のジョキヨクとなった
- ④ 授業料のメンジョ

問2 空欄 a e に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 6

- |   |         |           |          |        |         |
|---|---------|-----------|----------|--------|---------|
| ① | a どうも   | b いわば     | c ちよつと   | d いったい | e はたして  |
| ② | a どうやら  | b いうならば   | c ちよつぱり  | d もともと | e ほんとうに |
| ③ | a どころなく | b じっくりみれば | c ちよつくら  | d ともそも | e じつさい  |
| ④ | a なんとなく | b いわゆる    | c ちよくちよく | d もとより | e じつどころ |

問3 傍線部A「笑い」はむしろ価値の感情に属する感情ではないか」とあるが、文章全体から読み取れる「価値の感情」の具体的説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

① 「笑い」を価値低下という概念で捉えるものであり、なんらかの意味で一定の社会的価値が認められた者が衆人環視のなかで不格好な姿をさらしたことを笑われ、一個の人間から欠点をもった生身の人間へ価値を低下させることによって、笑った側の人間の価値は相対的に上がりはするのだが、そこには価値低下者への優越感が認められる。

② 「笑い」を喜びの感情というよりは知性的な感情であると捉えるものであり、「人間は笑う動物である」と定義づけたアリストテレスの説を援用するまでもなく、さまざまな感情表現のなかでも笑いだけが人間を他の動物とはつきり区別できるからこそ、予想だにしなかった、人間の価値に関わる重要な課題が残されてしまった。

③ 「笑い」を社会的制度と密接に結びついた哲学上の記号であると捉えるものであり、スクリーンのなかで小難しい表情を保ちながらも失敗をしかしてしまふチャップリンの動作が、単に個人としての笑いの対象たりうることのみならず、大英帝国の価値そのものも否定されるという深刻な二重構造を写し出すものであった。

④ 「笑い」を作品に登場するキャラクターの象徴として捉えるものであり、たとえば大阪の漫才や喜劇におけるアホや、東京の落語におけるアワテモノなどという価値低下者は、秩序を混乱させる存在であり、彼らの人間としての愚かさを享受することによって、大衆は自らが抱え込んでいるコンプレックスの解消を図るだけであった。



問4 傍線部B「私はどうもこの理論は、根本的にまちがっているように思う」とあるが、その理由の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① すでに失われた「柔軟な生命力」を奪還しようとする目的にのみ「笑い」の有効性があるのにもかかわらず、ころんとしまった紳士の醸し出すたまらない滑稽さをただ小ばかにしているだけだから。
- ② 「生きた生命」であるところの人間は、そのときどきの条件に応じて変動するものでなくてはならないのにもかかわらず、転倒した紳士を笑う「笑い」そのものに柔軟な生をとりもどす推進力が欠けているから。
- ③ 「笑い」の対象である人物が、なんらかの意味でその社会的な価値を承認された者であつてこそ、ころんとしまったことのおかしみが増幅するものだという観点が視野に入っていないから。
- ④ 「笑い」の対象である人物を紳士のみ限定するのは普遍性を欠いており、できうるなら子どもや老人、さらには気取ったポーズをとる着かざった美女にまで広げること、笑いの感情が説明できるから。

問5 傍線部C「紳士の黄昏を告知する詩人」とあるが、どういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① シルクハットにモーニング姿という、気障きざうな礼装の紳士が、世界に冠たる大英帝国というブランドを見せつけても、それに見合うほどの知性のひとかけらももち合わせていない、ということ。
- ② シルクハットにモーニング姿という、格式ばった礼装の紳士の、人生の最盛期からゆっくり下降していくさまが、栄光の時代を過ぎて衰退へと向かう大英帝国の孤高な姿をすでに予告していた、ということ。
- ③ シルクハットにモーニング姿という、いかにも仰々しい礼装の紳士だからこそ、そのしでかした失敗の衝撃度は鮮明であり、それはそのまま、栄光の時代から今もころげ落ちそうな大英帝国を象徴するものだった、ということ。
- ④ シルクハットにモーニング姿という、最高の礼装の紳士がしでかした失敗が笑いをとることと、かつては栄光を誇った大英帝国が没落に近づきつつあることが、イメージとして二重写しにとらえられる、ということ。

問6 傍線部D「価値低下されるのは一人の人間ではなく、それ以上のものである」とあるが、文章全体から読み取れる「それ

以上のもの」の具体的説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 日本の喜劇が、アホと人情のからみ合いという典型的に古いパターンから脱却して、社会諷刺を重視する、ヨーロッパの伝統的な喜劇の笑いに限りなく接近したもの。
- ② 日本の喜劇における笑いは、舞台の上に「作られたアホ」を発見することが前提であるが、作られたアホとしての演者は、演じ続けることで「主体的なアホ」になること。
- ③ 笑いは価値の低下した個人を対象として起こるのが基本であり、その対象たる演者が「作られたアホ」であろうが「主体的なアホ」であろうがどうでもいいこと。
- ④ 笑いが価値の低下した個人を対象として起こるばかりか、同時に、アホを演じる人間によって代表される社会的な価値そのものも笑われるということ。

問7 傍線部E「今後の「喜劇の笑い」は、どのような「笑い」である必要があるか」とあるが、それに対する回答として

筆者はどのようなことを提言しているか。その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

11

① 社会的な笑いが日常のメディアから消滅しつつあり、鋭い社会的関心や人類への信頼と慈しみを喪失した日本の喜劇は、単に個人の失敗ぶりをあざ笑うのみに終始している。滑稽の笑いにとどまらず、笑いにはさまざまな笑いが存在していることを銘記し、日本の喜劇人はその質の低下を食い止めなければならない。

② 笑いの対象が個人の失敗ぶりにのみ向かっている日本の喜劇は、本来の意味での喜劇とは決していえない。私たちは、個人の失敗を笑うことで、さらには失敗をしかした個人によって代表される社会的価値そのものも低下させる、ヨーロッパにおける喜劇の伝統を真摯しんしに学ばなければならない。

③ 笑いの意味を、個人の失敗をあざ笑うことで、自らのコンプレックスの解消を図ることだけに限定してはならない。世界の喜劇は、人類の価値の全体を低下させることによって自らにはりついた尊大さを打ちくたくものをめざすべきであり、そこに不可欠なものは鋭い社会的関心と人類への高邁こうまいな愛である。

④ 自らを理性的な存在として誇りつつも飛躍的な進歩を遂げる一方の近代のテクノロジーによって、他の生物を確実に絶滅に向かわせている人類の現在は、明らかに不幸としかいえない。その克服のためには、中核に高遠な愛と絶望が矛盾しながらも共存する新しい喜劇をめざさなければならない。

問8

本文の内容に合致しないものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

12

- ① 人間は「生きた生命」であり、外部の状況の変化には自在に反応すべきだと考えるベルグソンの立場だったからこそ、人間の生命力は常にしなやかさを失ってはならないものであった。
- ② なんらかの意味で社会的価値を認められた存在である紳士が転倒するからこそたまらなくおかしいのであり、同じ状況でもとりすました高慢な美女の場合は、醸し出される滑稽のニュアンスが違ってくる。
- ③ 笑いの作用をいちばんよく認識していた映画人チャップリンだったからこそ、シルクハットにモーニング姿を喜劇の小道具として有効に活用できたのだが、その衣装スタイルが印象づける滑稽味はゆるやかに変質してきた。
- ④ 近世以来ずっと、身分的な差別を身に沁みて思い知らされてきた大阪の人間だからこそ、漫才や喜劇に登場する、価値秩序の混乱者としての「作られたアホ」に笑いの焦点を結ぶことができた。

II

次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承ください。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。



この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

問1 傍線部(ア)～(ウ)の語句の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の①～④のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

(ア) 金銭ずくの関係

13

- ① 損失と利得の計算のレベルを超えた関係
- ② なにごともお金の力だけで済まそうとする関係
- ③ その場しのぎに、お金の力を行動の原則に置いた関係
- ④ 一方が他方に対して、権力に任せて事を行う関係

(イ) 峻別

14

- ① 二者の差異をわきまえて区分すること
- ② 細部にこだわらず、大雑把につかむこと
- ③ 曖昧な点を残さず、厳しく区別すること
- ④ 特定の基準のもとに選び出すこと

(ウ) 不可分

15

- ① ある要素の有無が物事の存立にかかわっていること
- ② 人力をもってしてはいかんともなしたがたいこと
- ③ できあがった状態を元に戻すことなどではしないこと
- ④ 分けようとしても分けられないほど密接な関係にあること

問2 空欄 a へ e に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

16

- |   |   |         |   |         |   |        |   |       |   |        |
|---|---|---------|---|---------|---|--------|---|-------|---|--------|
| ① | a | それどころ   | b | 少なからず   | c | とりも直さず | d | 筆頭にある | e | ともすれば  |
| ② | a | それどころか  | b | 少なくとも   | c | とりあえず  | d | 念頭にある | e | あえていえば |
| ③ | a | それだけに   | b | 多くは     | c | とりたてて  | d | 通念にある | e | あえなくも  |
| ④ | a | それだけでなく | b | 多かれ少なかれ | c | とりわけ   | d | 通例にある | e | 言いもあえず |

問3 次の段落は、本文中の【Ⅰ】～【Ⅳ】の後に続く、いずれかから抜き出したものである。挿入する箇所として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

17

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

- ① 【Ⅰ】      ② 【Ⅱ】      ③ 【Ⅲ】      ④ 【Ⅳ】

問4 傍線部A「国家が国民をつくり出し、国民が国家を再生産するという関係」とあるが、その説明として最も適当なものを、

次の①～④のうちから一つ選べ。

18

① 信頼できる社会の範囲として答える「国民国家」は、そこに帰属する個人に法令の遵守を強制する制度としての国家と、「具体的な人びとの群れ」にしか過ぎない国民とに大別され、陰に陽に二者は相殺しあう関係にあるということ。

② 信頼できる社会の範囲として答える「国民国家」は、武力の行使と支配の結果として「具体的な人びとの群れ」が国家により囲いこまれることで国民になったともいえるし、もともとは「何らかの点で似た人びと」が国家によって国民としての同質性をもつ共同体を形成したともいえるという、両義的だが切り離せない関係にあること。

③ 連帯感の一見希薄ともいえる集団が、実は何かにより、どこかで繋が<sup>つな</sup>っているものだという俗説からすれば、国家概念の基部にある、個人々人を繋ぐ根源的な前提といえるべきものは、まずは言語や制度の共有であり、それらが国家間におけるモノやヒトやらのグローバルな流通を促し、経済を活性化しつつあるということ。

④ 国家と国民の関係はあくまでも相対的なものであり、そのいずれに重きを置くべきか迫られるとなると、国家からする制度的な政策による働きかけは拒みきれないにせよ、まずは国民が国家に優先することはいうまでもなく、その際、解決すべき最大の課題は、共同体におけるアイデンティティの意識をいかにうまく築けるかということ。

問5 傍線部B「関係は、それを見ないことによつて消滅するわけではなく、むしろ、見なければますますそこに残ります」と

あるが、その説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

19

① 「市場」と「社会的連帯」を比較すれば、前者がおもに利己的な動機に、後者がおもに利他的な動機にそれぞれ基づくという大きな差異が認められるにせよ、あえて意識すると意識しないとにかかわらず、二者の関係は可逆的な性質を是らんでおり、そこに明確な境界線を引くことはできない。

② 「社会」と「国民」とに、さらには「国民」と「国家」とに躊躇なく等号が引かれうる限りは、ある国民国家を切り取る境界線は既成の事実として存在し、その内外のいずれに位置するかによつて国民の社会的活動は多大な制約を受けるとにせよ、そのぶん内部における政治は不安定な方向に向かうことはない。

③ 「社会」と「国民」とを、さらには「国民」と「国家」とをそれぞれ自明なものとして繋ぐならば、社会的連帯や支援の交流などは、国民国家として切り取られた境界線の内部における、ごく狭い領域でしか行われなくなるのだが、その様相は隠蔽され、それゆえに、社会的な問題として前面に現われてくることが少ない。

④ 「社会」は、「国民」という概念といともたやすく結びつくことで、時勢の影響により変質することのない安定性を維持することは可能だが、国民国家を形成する境界線が引かれることで、その内と外が単純に二分されたに過ぎず、このようにして成立した社会は、国家から真に独立した存在だとはいえない。

問6 傍線部C「福祉社会（ないし福祉国家。どちらとも呼べることが重要です）」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

20

① 「福祉社会」を維持するためには、社会的連帯の実現をめざして、なんらかの共同体意識とでも呼ぶべき、集団としてのアイデンティティが必須であり、福祉政策の中枢を担っているのが現状の「国家」であることが否定できない限りは、そこに福祉の機能性の十全たる発揮を任せた方がいいから。

② 「社会」はあくまでも理論上の概念に過ぎず、ボランティアなどの、いわゆる市民運動をはじめとする社会的連帯を背後で支えているのは「国家」そのものであって、仮に「福祉社会」と呼んでも、実際の主導権のほとんどが国家によって掌握されている限りは、「福祉国家」と呼ぶことになんの違和感もないから。

③ 「国家」に帰属する個々人の生活条件を平準化し、社会的な階層による格差をできるだけ解消するためには、国家財政の大部を占める税収入を平等に請けあうシステムを導入することで初めて、福祉という再配分が有効に機能するはずであり、その達成において「福祉社会」という名辞が意味をもつから。

④ 福祉という概念は一般的には、国家とは別の市民社会的な領域、つまり社会的連帯や支援の交流などという、自発的なボランティア活動の延長線上において捉えられがちではあるが、国家権力とは切り離せられない、深い関係にあるのが実状であるからには、「社会」と「国家」は鋭く対峙しているとはいえないから。

問7

本文の内容に合致しないものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

21

- ① 「社会」という言葉は、かつてヨーロッパにおいては、上流の階層に属するひと握りの集団を指すものにしか過ぎなかったが、近代を経てやがて現代を迎えるにあたり、その意味は、原義とはほとんど異なる方向に変質した。
- ② 信頼しうる社会の範囲を「国民国家」として任意に捉えてしまった結果、社会は国民と等式の関係にあるという解釈と、社会と国家の差異を裁断せねばならないという解釈が生まれ、両論は激しく競合することになった。
- ③ 民族や文化を共有する「何らかの点で似た人びと」は国家によって囲い込まれたが、たとえば二〇世紀の二度にわたる大戦においては、人びとの都合とまったく無関係に行われたというわけではなかった。
- ④ 国家の概念は、制度的な教育が行われたり文化的な統合政策が行われたりした結果、「国民としての同質性」という共同体のアイデンティティが形成されてきた過程としてとらえることができる。



III

次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願します。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願いたします。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

この部分に記載されている文章については、  
著作権法上の問題から公表することが  
出来ませんのでご了承承願います。

問1 空欄 a へ e に当てはまる語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

22

- |   |   |       |   |       |   |        |   |        |   |        |
|---|---|-------|---|-------|---|--------|---|--------|---|--------|
| ① | a | あわてる  | b | くずおれて | c | うしろめたさ | d | 食いこんで  | e | あきらかに  |
| ② | a | うろたえる | b | くぐもって | c | やましさ   | d | 差しつかえて | e | あからさまに |
| ③ | a | うなだれる | b | くすぶって | c | はずかしさ  | d | 妨げて    | e | かりそめに  |
| ④ | a | あせる   | b | くたびれて | c | いたましさ  | d | 阻んで    | e | かるはずみに |

問2 空欄「 W 」 「 Y 」 に当てはまる四字熟語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～④のうち

から一つ選べ。

23

- |   |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | W | 牛飲馬食 | X | 一得一失 | Y | 同質圧力 | Z | 固定観念 |
| ② | W | 鯨飲馬食 | X | 一短一長 | Y | 同質努力 | Z | 脅迫観念 |
| ③ | W | 暴飲暴食 | X | 一長一短 | Y | 同調暴力 | Z | 強迫観念 |
| ④ | W | 暖衣飽食 | X | 一利一害 | Y | 同調圧力 | Z | 強圧観念 |

問3 傍線部A「聞こえが悪くなったら、メガネをかけるぐらいの気軽な感覚で補聴器を着ける」とあるが、このような心境に

至るまでの筆者の心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

24

① 左耳の突発性難聴という診断の結果は、死の宣告にも似た深刻な苦しみをもたらし、難聴者である自分をそのまま受け入れるためには五年という月日を要するほどであった。重く暗い感じが支配する自らの日常を打開するためには、「耳のメガネ」という言葉をどこかで目にすることが重要な転機となってくれた。

② 左耳の突発性難聴という診断の結果は、精神的な混乱を一時的にもたらしはしたが、難聴者である自分から目を背けず、さらにはごく近い人にもカミングアウトすることで、それまでの心理的負担からくるうしろめたさがはるかに軽減されるという、ありがたいとしかいいようのない結果を招来してくれた。

③ 左耳の不調をそのまま放置した結果、どんどん悪化の一途をたどる自らの突発性難聴の深刻さに強い衝撃を受けてしまった。人と会うのが苦痛になり、心理的負担のせいで引き籠もりがちになって、体調のすぐれない日々が続くとともに耳鳴りも悪化するという状況に至るまでは、ただ手を拱こまぬいているだけだった。

④ 左耳の不調とそれの悪化とともに、人との付き合いにおける自らの心理的負担が予想以上に大きく、会うのが億劫おっくうになり足が遠のくのと同時について引き籠もりがちになり、毎日の生活はどんよりの一語に尽きるものであった。そんな苦しみを糊塗ことするためには、薬くすりにもすがらないで補聴器の着用を思い立った。



問4 傍線部B「一番厄介なのは、難聴は目に見えない、ということだ」とあるが、このときの筆者の心情の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

25

- ① 補聴器を着けたことに対する、相手の困惑するであろう反応を予測して、自分の方からは決してカミングアウトしようとは思わなかった。
- ② 突発性難聴という、思いも寄らない診断を下された精神的衝撃からなかなか立ち直れず、すぐに死に結びつけたわけではないけれど、深い恐怖の淵ぶちに沈み込むだけだった。
- ③ 自分の難聴の具体的なありさまを、相手が直接には認識するわけではないから、歯がゆい思いを抱きつつも聴こえるふりをするにはうしろめたさがあった。
- ④ ほかにも大勢いる難聴者と比べれば、自分のは軽度に過ぎないと勝手に思い込むことで、自らにかかる心理的負担をなるべく和らげようと齷齪あくせくしていた。

問5 傍線部C「自分の難聴は軽度であって、取るに足らないと思込もうとしていた」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

26

- ① 一種の障得を印象づける補聴器を着用することで、人からの同情を買ふことは、それまでの自分のプライドからいつでも受け入れられるものではなかつたから。
- ② 突発性難聴により、聴力が低下し耳鳴りは悪化する一方で、人との付き合いは肉体的にも精神的にも苦痛ではあつたが、補聴器の存在には思い至らなかつたから。
- ③ 自分の突発性難聴の直接の原因は、単に肉体的な側面によるものではなくて、社会の暴力的な声に耳をふさぐ精神的な圧迫と抑鬱がかかわっているものだったから。
- ④ 難聴者は一般に思われているよりも大勢いるにせよ、自ら積極的に難聴者であることを可視化することで生じるマジョリティからのバッシングをかわす必要があつたから。

問6 傍線部D「難聴者は別に迫害はされていないけれど、自分の心の中に自分を迫害する声を持ってしまふ」とあるが、その

理由として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① マイノリティはあくまでもマイノリティであるがゆえにマジョリティに拮抗できず、それだけに、当面は自らの信念を曲げてまでも多数の意見に従ったほうが無難だと思ひ込むから。
- ② マジョリティからすれば当たり前とは思えないマイノリティの存在意味を隠蔽し、いかにもノーマルなものとして示すことで、のちのちはマジョリティと張り合う対抗勢力になりうるから。
- ③ マジョリティからの情け容赦のない悪意に身をさらされ、それが苛烈なバッシングとまではいえぬものの、マイノリティゆえの屈託をどうしても抱かざるをえないから。
- ④ マイノリティにすれば、マジョリティからのバッシングに屈することを潔しとはしないものの、両者の関係性におけるマジョリティの圧倒的な勢力にはさすがに太刀打ちできないから。

## 問7

本文の内容に合致するものとして最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

28

- ① 不惑を少し過ぎた頃から、左耳に違和感が出はじめた。耳鼻科医からの厳しいお達しや、当代のポップス・シンガーと同じ病名だったこともあって、それまで抱えていた仕事からすべて降りたが、難聴者である自分を許容しようとは決して思えなかった。
- ② 難聴という障碍を抱え、悪化する一方の耳鳴りも解消せず、もやもやした気分は晴らしようがなかった。人との関係もままならず、体調もすぐれない日々がいたずらに続くだけの頃、難聴者である自分と真正面から向き合うことにした。
- ③ 専門店から薦められた補聴器は、ヨーロッパにおけるプロサッカークラブとも縁の深い企業が開発したものだ。色も形も垢抜けていて、かつ小型できわめて高度な機能を内蔵するもので、廉価とはいえないため、しばらくは購入できないうでいた。
- ④ 日本ではメガネに比べて、補聴器という装置は特殊なものであると見なされてきたため、なかなか普及しない。初めはためらっていた補聴器の着用を思いきって決断することで、それまで抱えていた心の負担から解放されることができた。







